

初台リハビリテーション病院 「リハビリテーション連携マップWEB版」が完成しました

区西南部地域リハビリテーション支援センターのホームページから、渋谷区・世田谷区・目黒区の3区でリハビリテーションを提供している事業所を検索できるようになりました。検索項目にご希望の条件を入力いただくと、条件にあった事業所の一覧が地図上に表示され、詳細を確認することができます。右のQRコードを読み込むと検索ページに移動することができますので、ぜひご利用ください。



船橋市立リハビリテーション病院 面会を一部再開いたします

新型コロナウイルスの感染症対策として入院患者さまへの面会を中止しており再開について慎重に判断してまいりましたが、感染者数が減少傾向にあることから7月より病棟での面会を一部再開することとなりました。ホームページからの予約制で、少しでも多くの患者さまがご家族さまと面会が出来るよう調整いたします。今後の状況に応じて変更する可能性もございますが、患者さまが安心・安全に入院生活を過ごせるよう努めてまいります。



船橋市リハビリセンター 改正道路交通法施行規則改正への対応について

2022年10月から、業務による運転の前後にアルコール検知器を用いたアルコールチェックが義務化されます。当センターでも運転業務(患者さま・利用者さまの送迎)を行っている為、安全運転管理者の選任・アルコールチェッカーの台数を増やし、運転日報を変更するなど、適宜対応を進めております。これからも患者さま・利用者さまに安心してサービスを利用しただけのよう取り組みを進めて参ります。



在宅総合ケアセンター元浅草 3年ぶりに鳥越祭に参加しました!

鳥越祭は1350年もの歴史がある、鳥越神社の例大祭です。今年は3年ぶりに御本社神輿が、氏子町会を巡ることになり、交通整理などの協力で20名ほどのスタッフが参加しました。御本社神輿は「千貫神輿」と呼ばれ、その重さは都内最大級の約4トン! 今年は新型コロナ感染予防のため担がず、曳き台を使用して町内を練り歩きました。地域で脈々と受け継がれる大切な伝統・文化にふれる素晴らしい機会となりました。



在宅総合ケアセンター成城 成城リハケア病院に新しい訓練装置を設置しました!

上肢用ロボット型運動訓練装置 ReoGo-J を導入しました。患者さまの機能障害の程度に合わせ適切な可動域で安全に訓練が実施できます。

この ReoGo-J を積極的に活用することにより廃用手の予防、機能回復、更に生活場面で麻痺手の使用機会が増えることが期待できます。上肢機能を必要とする日常生活動作や余暇、仕事、役割といった患者さまの生活・QOL 拡大が期待できリハビリテーション専門病院としての機能・役割を果たすことを目指していきます。



季刊情報誌「輝NET」 編集発行 医療法人社団 輝生会 本部/〒110-0015 東京都台東区東上野1-28-9 5F <https://www.kiseikai-reha.com>

- 初台リハビリテーション病院 〒151-0071 東京都渋谷区本町3-53-3 TEL.03-5365-8500 <https://www.hatsudai-reha.or.jp>
- 船橋市立リハビリテーション病院 〒273-0866 千葉県船橋市夏見台4-26-1 TEL.047-439-1200 <https://www.funabashi-reha.com>
- 船橋市リハビリセンター 〒274-0822 千葉県船橋市飯山満町2-519-3 TEL.047-468-2001 <https://www.funabashi-rehacen.com>
- 在宅総合ケアセンター元浅草 〒111-0041 東京都台東区元浅草1-6-17 TEL.03-5828-8031 <https://www.motoasakusa-reha.com>
- 在宅総合ケアセンター成城 〒157-0072 東京都世田谷区祖師谷3-8-7 TEL.03-5429-2292 <https://www.seijo-reha.com>

本誌へのご意見ご要望はメールにてお寄せください。 contact@kiseikai-reha.com



石川会長追悼行事

たくさんの感謝とあたたかい思い出、そして新たな決意の会となりました

2022年5月29日、輝生会主催の故石川会長の追悼行事が執り行われました。多数の皆さまにご参会いただき、輝生会らしい思いのこもった会となりました。ここに、ご参会いただけなかった皆さまにも開催につきましてのご報告を申し上げます。

追悼行事については、故石川会長(以下、「石川さん」)が逝去されて間もなくから企画を開始しました。

遺言として「『お別れ会』を盛大に開催してほしい、たくさんの方においしいお酒やお料理をふるまってほしい。」と託されたためです。早速に会場を探し始めましたが、新型コロナウイルスの感染の収束の見通しが立たず、宴会は諦め、1周忌として石川さんを偲ぶ会を開催することになりました。会場を永田町にあります都市センターホテルとし、委員会が発足し準備を開始しました。プログラム構成を、外部の所縁ある皆さまにご参会いただく第1部、患者さま利用者さまに献花をしていただく第2部、輝生会職員OBOGと現職員が参会する第3部という、3部制といたしました。

当日のご参会者は第1部が約300名の皆さま、第2部は約40名の皆さま、第3部はOBOG 140名の皆さまに

現役職員も加わり、たいへん盛大な会になりました。また、たくさんの供花を頂戴いたしましたおかげで、祭壇が白く美しい花でいっぱいになり、遺影を花々で飾ることができましたことも、心より御礼申し上げます。

式典につきましては、石川さんはその遺言の中で、遺影、弔辞の方、音楽など細かく指示を出しており、すべてそれに従いました。運営は職員がそれぞれ役割を担い、献花など慣れないご案内は公益社の方にご指導いただきながら練習をいたしました。

いよいよ、当日です。石川さんらしい晴れやかな、夏日となるほどの晴天となりました。第1部は、主催者挨拶、弔辞をいただき、石川さんの追悼ムービー、輝生会からの謝辞と進み、参会者の皆さまに献花をしていただくという流れでした。弔辞は3名の方から頂戴しました。皆さまそれぞれが、石川さんとの思い出を語りながら、功績を称え、改めてその歩みを振り返ることができました。追悼ムービーも職員の手作りで、在りし日の元気な石川さんの笑顔や職員との交流、外部の皆さまとの懇親の様子が流れ、多くの方が涙を流しながら見ていらっしゃいました。(次ページへ続く)



- | | | | |
|----------------|------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 輝生会の基本理念と方針 | <ul style="list-style-type: none"> ■ 「人間の尊厳」の保持 ■ 「主体性・自己決定権」の尊重 | <ul style="list-style-type: none"> ■ 「地域リハビリテーション」の推進 ■ 「ノーマライゼーション」の実現 | <ul style="list-style-type: none"> ■ 「情報」の開示 |
| 輝生会における患者さまの権利 | <ul style="list-style-type: none"> ■ 人権を尊重される権利 ■ 自分の診療の情報や記録を知り、求める権利 | <ul style="list-style-type: none"> ■ 最善の医療を受ける権利 | <ul style="list-style-type: none"> ■ 自らの意思で選択・決定する権利 ■ プライバシーの保護を求める権利 |



第2部は患者さま、利用者さま及びご家族の方々が、献花のためにご来場くださり、それぞれの思い出とともに、静かに花を手向けていらっしゃいました。第3部は、懐かしいメンバーが集い、輝生会らしい追悼の会となりました。石川さんとともに輝生会を牽引し、チーム医療を推進し、輝生会の理念を体現してくださった諸先輩と、それを引き継ぐ現職員とともに石川さんの薫陶を胸に刻み、石川さんへの感謝とともに心新たに誓う会となりました。

ご参会いただきました皆さまには輝生会からのお引き物として「20周年記念誌～石川誠と歩んだ20年～」をお渡しいたしました。「石川誠ことば集～忘れられない思い出・エピソード～」とともに編纂しております。石川さんとともに歩んできたメンバーの思いのこもった本になりました。

石川さんの偉業は決して色あせることはありません。わたくしたちや皆さまの心の中の、明るい灯りとして輝き続けていくことと思います。



弔辞

学校法人 藤田学園
常務理事 才藤 栄一 様

(前略)

先生とのお付き合いは20年足らずの、長いとは言えないものですが、私の人生にとって、掛けがえのないものでした。2000年、回復期リハビリテーション病棟制度成立の立役者である石川先生を知り、(中略)実物の先生に接して、さらに興味が増し、以来、お付き合いさせていただくようになりました。(中略)

リハビリテーション医学というユニークな医学を共に志し、先生と同じ場面を歩けたことは私の人生の掛けがえのない財産です。

もちろん、この財産は、日本の全ての患者さんにももたらされていたものでもあります。私たちが回復期リハという日本の優れた制度を概念的枠組みとともに持ち得たのは、ひとえに先生の先導によってであり、石川誠という一人の人間がリハビリテーション医療の流れを大きく先に進めたのです。

私にとって、先生のお元気な頃も、ご逝去の後も、いつでも、先生のことを思い浮かべる時間は、心地よいものとなります。この感覚は色で言えばスカイブルー、爽やかな明度と透明感あふれる彩度を持っています。もちろん、もくもくとした白い入道雲の向こうにある青空も、秋の高い遥かな青空も、夕焼けの懐かしい赤みがかかった青空もあります。そして、日暮れ間際の薄闇色は、私を、美しい料理と楽しい酒のうたげの記憶へと導いてくれます。

先生の思いは、いつでも、私たちが行いたいと願っている行いを素直に表しています。先生の行動を尊敬し、人柄を敬愛し、姿勢を憧憬しています。今回、先生への感謝を伝える機会が得られたことを、心から幸せに思っております。



医療介護福祉政策研究フォーラム
理事長 中村 秀一 様

(前略)

先生は院内にとどまる人ではありませんでした。地域リハビリテーションを根付かせるため、輝生会の拠点がある台東区や世田谷区で関係者を集めての研修会を熱心に主催されていました。(中略)

終了後には地域の医師会の幹部を懇親会に誘われ、参加者銘々にお酌をして回るオルガナイザーとしての先生のご様子を間近に拝見しました。(中略)

回復期リハビリテーション病棟に関する厚生労働省の仕事上のカウンターパートは、診療報酬改定を担当する歴代の医療課長であったと思います。

医療課長は医系技官の中でも最優秀の人々であります。彼らが石川先生に寄せる信頼は絶大なものがあり、先生と彼らとのやりとりは、きわめてフランクなもので、そばで見ていると誠に気持ちの良いものでありました。

石川先生のご業績については、本年2月の研究大会で二木立先生が詳細におまとめになっておられますが、私がお付き合いいただいた期間における医療政策面での石川先生のご功績は、誕生したばかりの回復期リハビリテーション病棟を全国に普及させたこと、そしてそこで行われるリハビリテーション医療の質の向上に貢献されたことであると思います。

先生は、回復期リハビリテーション病棟の皆さんのデータを地道に積み上げられ、それを厚生労働省に提示していかれました。それによって、2年ごとの診療報酬改定は、回復期リハビリテーション病棟のあるべき姿に向けて誘導する内容となりました。

これによって、回復期リハビリテーション病棟は量的にも、質的にも大きく発展・向上致しました。石川先生のご努力が結実したものと認識いたしております。(後略)

医療法人共和会 小倉リハビリテーション病院
名誉院長 浜村 明德 様

(前略)

石川さんがリーダーとなって、我が国のリハの発展には「治療の拠点が必要である」と、再三、国にお願いしておりました。しかし、なかなか関係団体の理解が得られず、四面楚歌の状態でしたが、そんな状況にあっても石川さんはリハ業界の未来を思い描き、国にお願いし続けました。(中略)

そして創設後は回復期リハ病棟協会を設立して、発展のための取り組みを続けていました。

意気盛んな仕事盛りの50代前半、共に過ごせたことは私にとって一生の宝物ですが、この頃から、宴席では肩組んで「兄弟船」を歌ったものです。余人をもって代えがたい人物であったことは言うまでもございませんが、私にとりましては、最も頼れる友であり、出会っていなければこんな人生にはならなかった恩人でもあります。「やり残したことはない」と言っていたとのことですが、まだまだ我が国のリハになくってはならない人でした。

では、万感の思いを込めて、お礼を述べさせていただきます。「石川さんがいたから、日本のリハは変わった」、私は確信しています。

あなたは、夢を持ち続けて生きていた。ある時はスタッフに、ある時は患者さんや地域の人々に、問いかけ、そして行政や政府に働きかけてきた。そして、あなたはものづくりが超一流だった。気持ちを切らさず、それまでなかったものにチャレンジしてきた。

あなたは天性の輝きをもって生まれ、人を引き付ける魅力を持っていた。だから、周りの人は強く共感し、動いた。石川さん、あなたのおかげで日本のリハは変わったよ。長い間付き合ってくれてありがとう。そして、ご苦労様。安らかにお休みください。

(後略)